

インフォシス、ガートナー社®の 2022 年「Oracle Cloud アプリケーション サービス向けマジック・クワドラント™」で世界のリーダーに認定

バンガロール (インド) – 2022 年 6 月 21 日: 次世代デジタル・サービスおよびコンサルティングの世界的リーダーである [インフォシス](#) (NSE、BSE、NYSE: INFY) は、本日、2022 年の「Gartner® Magic Quadrant™ for Oracle Cloud Applications (OCA) Services, Worldwide」でリーダー企業としての評価を獲得したことを発表しました。インフォシスがガートナー社により Oracle Cloud アプリケーションサービス部門のリーダーとして評価されるのは、これで 3 年連続です。

ガートナー社は、実行能力とビジョンの完全性の 2 つの基準により、Oracle Cloud ベンダー 19 社のグローバルな能力に関する包括的な評価を実施しました。レポートの執筆者は、「OCA がベンダーとともに達成した成長は、全体的な Oracle の成長とオンプレミスサービスからの軸足の変化が相まって実現されたものである。このマジック・クワドラントでは、クラウド部門の成長とは、実行に加えビジョンの強力な指標でもある」と記述しています。

インフォシスのエグゼクティブ・バイス・プレジデント兼デリバリー共同責任者である Dinesh Rao は次のように述べています。「Oracle Cloud アプリケーションを通じて自社のビジネス環境を世界中で変革させることを模索し、特にスムーズな移行の必要性を強く意識する企業にとって、大きな成長の機会が訪れています。インフォシスは、クワドラントでリーダーとして認定されたことは、顧客の Oracle Cloud 変革ジャーニーを高速化し、[Infosys Cobalt](#) の一部として最高品質の Oracle Cloud アプリケーションサービスを提供することを重視する、当社の揺るぎない姿勢の証左であると信じています。Oracle Cloud 分野で成熟度が増している AI、IoT、ブロックチェーンの新しいユースケースの登場により、インフォシスは、引き続きサービス提供の範囲を拡大し、お客様のビジネスの成果を改善する新しい方法を探索してまいります。」

インフォシスは Oracle のグローバル戦略パートナーであり、グローバル企業におけるアプリケーションのモダナイズとクラウド変革ジャーニーの高速化を、Infosys Cobalt が提供するサービスを活用して推進しています。インフォシスは企業が迅速な情報処理、インテリジェントな意思決定、リアルタイムでの市場要因への対応を確実に行えるよう、自社の IP、領域専門性、業界知識を活用しています。

ガートナー社免責事項

ガートナーのリサーチの発行物は、そこに掲載された特定のベンダー、製品またはサービスを推奨するものではありません。また、最高の格付けまたはその他の認定を受けたベンダーのみを選択するようにテクノロジーユーザーに助言するものではありません。



ません。ガートナー・リサーチの発行物は、ガートナーのリサーチおよび助言組織の見解から成るものであり、事実を宣言したものではありません。ガートナーは、明示または黙示を問わず、本リサーチの商品性や特定の目的への適合性を含め、一切の保証の責任を負いません。GARTNER および MAGIC QUADRANT Gartner Inc. または関連会社の米国およびその他の国の登録商標およびサービスマークであり、同社の許可に基づいて使用しています。無断複写・転載を禁じます。

インフォシスについて

インフォシスは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーとして、30 万人以上の従業員とともに、人間の可能性を高め、人・ビジネス・コミュニティの次の機会を創造するために活動しています。40 年以上にわたるグローバル企業のシステム・業務管理の実績に基づき、専門家として、50 か国以上のお客様のクラウド活用によるデジタル変革への道筋を推進します。当社は AI 駆動型コアを利用してお客様の変革を実現し、大規模なデジタル・アジャイルでビジネスに力を与え、常に学ぶ姿勢で、デジタル・スキルの移転を通じてお客様の継続的改善を推進しています。インクルーシブな職場で多様な人材が活躍する、効果的に統率された、環境面で持続可能な組織であることに全力を注いでいます。

インフォシス (NSE、BSE、NYSE: INFY) が次のステージへと進む企業を支援する方法については、www.infosys.com をご覧ください。

セーフハーバー条項

本リリースに掲載されている報告書の一部は、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項の適用を意図した当社の将来的な成長と今後の配当、財務的期待、当社の従業員、顧客およびステークホルダーへの COVID-19 の影響を管理するための計画を予測するものであり、そこには多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクおよび不確定要素としては、COVID-19 に関連するリスクと不安定要素、その拡散を抑制するための政府およびその他の対策の効果、インド、米国、世界のその他の国々の景気低迷や不況に関連するリスク、政治、ビジネスおよび経済環境の変化、収益や外国為替相場の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。将来の営業業績に影響すると考えられるその他リスクについては、2020 年会計年度年次報告書 (Form 20-F) を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。当社は、米国証券取引委員会および株主への報告書内の情報を含め、書面または口頭で将来の展望を随時発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問い合わせ先:

日本支店 マーケティング本部長 安藤 : jo_ando@infosys.com